

ゼオマイン®による治療を受ける 患者さんとお家族のみなさまへ

ゼオマイン®とは

ゼオマイン®は、ボツリヌス菌がつくり出すA型ボツリヌス毒素（一般名：インコボツリヌストキシンA）を有効成分としています。

ボツリヌス菌そのものを注射するわけではないため、ボツリヌス菌に感染する危険性はありません。

ゼオマイン®による治療

じょうしけいしゆく かしけいしゆく 〈上肢痙縮、下肢痙縮〉

この薬は、上肢痙縮・下肢痙縮の症状を和らげる治療として、緊張している複数の筋肉に直接注射します。その効果は通常12～16週で消失します。効果が無くなってきたときにはあらためて注射します。あらためて注射するときの間隔は12週以上ですが、症状に応じて10週まで短縮できます。

まんせいりゅうぜん 〈慢性流涎〉

この薬は、慢性流涎の症状を和らげる治療として、唾液腺（耳下腺、顎下腺）に直接注射します。その効果は通常16週で消失します。効果が無くなってきたときにはあらためて注射します。あらためて注射するときの間隔は16週以上ですが、症状に応じて14週まで短縮できます。

この薬は慢性流涎の原因疾患の治療薬ではありません。慢性流涎の原因となる疾患の治療などを併せて行ってください。



ゼオマイン®による治療前にご注意いただきたいこと

▼ 次の方は治療開始前に医師・薬剤師にご相談ください ▼

- この薬や、同じ成分の薬を以前に使用し、湿疹が出るなどのアレルギーを経験したことがある方
- 以前、または現在、他の医療施設でボツリヌス毒素の投与を受けている方
- 全身性の筋肉の脱力などの病気（重症筋無力症、ランバート・イートン筋無力症候群、きんいしゆくせい筋萎縮性側索硬化症など）がある方
- 市販薬を含めて、下記の薬剤を使用中の方
【注意が必要な薬剤】※ゼオマイン®の効果が強くあらわれることがあります。
・きんしかんやく筋弛緩薬 ・筋弛緩作用を有する薬（抗生物質など） ・他のボツリヌス毒素製剤
・唾液分泌抑制作用をもつ薬剤 など
- 妊婦または妊娠している可能性がある女性、授乳中の女性



ゼオマイン®による治療中にご注意いただきたいこと

- この薬を投与したことにより、投与部位以外の部位に影響が出て、えんげしょうがい 嚥下障害（食べ物や水が上手く飲み込めずむせる）、ごらんせいはいえん 誤嚥性肺炎（発熱、咳、痰、息切れ、息苦しい）があらわれることがあります。投与開始から16週までにこれらの症状をはじめとして体調に変化が生じた場合、直ちに医師の診察を受けてください。
- 他の医療施設でボツリヌス毒素の投与を受けた場合は、治療の目的や投与日を必ず申し出てください。
- 妊娠する可能性のある女性は、投与中および最終投与後16週経過するまでは避妊してください。
- この薬を投与した後、脱力感、筋力が低下するといった症状があらわれることがあるので、自動車の運転など危険を伴う機械を操作する際はご注意ください。

かしかいしゆく

〈下肢痙縮の方〉

- 筋力バランスの変化などにより、転倒などが起こりやすくなる可能性があります。

まんせいりゅうぜん

〈慢性流涎の方〉

- 口の中を清潔にするようにしましょう。
- 唾液の量が減ることによって、嚥下障害、誤嚥性肺炎があらわれることがあります。特に、もともと、食べ物や水が飲み込みにくい患者さんでは、飲食物、痰や唾液、胃液などが誤って気管に入ることによって、誤嚥性肺炎になる場合がありますのでご注意ください。

ゼオマイン®の副作用

■ 重大な副作用 ■

- ・ アナフィラキシーを含むアレルギー反応が起こる可能性があります。
息苦しさ、皮膚の赤み、急な皮膚のはれ、じんましん、吐き気などがあらわれた場合、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・ 嚥下障害（食べ物や水が上手く飲み込めずむせる）、誤嚥性肺炎（発熱、咳、痰、息切れ、息苦しい）があらわれることがあります。

■ 主な副作用 ■

消化器	口が乾く、便秘
筋骨格	筋力低下、手足の不快感
注射部位	注射部位内出血
その他	ろれつがまわらない、転倒、血中クレアチンホスホキナーゼ増加

■ 薬の作用が強くあらわれた場合に生じる主な症状 ■

- 全身の筋力低下
- 物が二つに見える
- ことばがでない
- まぶたが開きにくくなる
- 呼吸困難
- 食べ物や水が上手く飲み込めず、むせる など
- しゃべりにくい

上記以外でも気になる症状があらわれたときは、
医師・薬剤師に連絡してください。